

(11) 岡山県北地域における相談支援体制の整備に関する現状と課題

～障がい者自立支援協議会における取り組みより～

旭川荘愛育寮・旭川荘総合研究所医療福祉研究センター ○寺町 清二

旭川荘総合研究所医療福祉研究センター 松本 好生

**【要 旨】**

あなたの希望・困りごとは何ですか、と尋ねられても何をどう返答してよいのか分からないし、よく知らない人に話などしない。当たり前のことである。

中山間地域では、過疎化が進み、往々にして高齢者世帯の比率が高くなっている。併せて、バス路線の廃止、各種配達サービスの縮小が進む地域もある。

今回、高梁地域で暮らされている障がい者の方々のニーズをどのようにして把握してきたのか。知り得たニーズを具現化するために、また、過疎が進む地域の将来を見据えた活動実践の発表を行う。

高梁地域にて、平成24年度より障がい者ニーズを把握するために、訪問支援を強化する。その取り組みは、相談依頼者の様子、暮らしぶり、地域との関係等の状況掌握を進め、結果的に、初期対応の迅速化・本人意向に沿ったニーズ対応に繋がったと考える。併せて、ケア会議開催により、障がい者における暮らしの地域支援基盤づくりに直結する。

また、各種サービス・支援者での個別対応しきれない事情においては、地域全体での取り組みが求められた。そのため、障がい者自立支援協議会の活用を検討するが、現状として、協議会運営が停滞しており、年間を通じて開催されていなかった。そのため、協議会の活性化・ビジョンづくりを推し進める。

また、高梁地域の地域課題として、一例を挙げると、児童期におけるヘルパー利用はほとんどみられない状況であった。このことは、ヘルパー利用をしていない児童は、大人になっても利用率の低いことが予測される。年を重ねるにつれ将来的に障がい者と高齢家族のみの世帯が増し、緊急時における対応の遅れに繋がりがかねないともとれる。そのため対応策として、ヘルパー利用等への啓発と増員への取り組みが求められる。では、ヘルパー増員はどのようにすれば実現可能なのかの一案を説明する。特に中山間地域での早期に取り組むべき事案の一つである。

上記内容を今回の発表要旨とする。